

Title	<紹介>岡崎友子・堤良一・松丸真大・岩田美穂編 『ココが面白い！日本語学』
Author(s)	中野, 直樹
Citation	語文. 110 p.45-p.46
Issue Date	2018-06-30
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/73323">https://hdl.handle.net/11094/73323</a>
rights	
Note	

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

岡崎友子・堤良一・松丸真大・岩田美穂編『ココが面白い！日本語学』

中野直樹

本書はその冒頭部にもあるように、日本語学・日本語教育学をこれから学ぶ人や日本語に関心のある人に向けて書かれており、様々なトピックごとのガイドブックのような仕上がりになっている。先に、本書の内容を章立てごとに示しておく（～内は取り上げられるトピックを示している）。

第1章「しんぶん」の「ん」は同じ音？ 〈音〉〈第2章「友子の部屋掃除」は「部屋の友子掃除」？ 〈語構成〉〈第3章「指」の呼び方も変わります！ 〈語彙〉〈第4章「もうご飯食べた？」「いいえ、食べませんでした」は、いつの会話？ 〈テンス〉〈第5章「わたしは友子です」と「ワタシハ友子デス」〈表記〉〈第6章良一にチョコをくれてやる！ 〈やりもらい〉〈第7章行ったり来たりの「タリ」って？ 〈動詞・助動詞〉〈第8章なぜ方言があるの？ 〈方言〉〈第9章「そうだ京都、行こう。」の「そう」は何をさしている？ 〈指示詞〉〈第10章あなた、誰に言ってるの？ 〈方言〉〈第11章「カラカラ」って、どんな笑い？ 〈オノマトベ・副詞〉〈第12章「アノー、ソノー、エーットね……」何がしたいの？ 〈ファイラー〉〈第13章「これって今はやりの本ですよね？」「ですです」〈敬語〉〈第14章

「だから、でも、では……」文と文をつなげる架け橋〈接続詞〉〈第15章 日本語学の悩み事なら聞いて差し上げてよ？ 〈役割語〉

右のごとく、本書で取り上げられているトピックは多彩である。内容を見ると、各トピックの本文冒頭箇所に、「この章のポイント」として、おさえるべき要点が示されており、初学者はどこに注意して読むべきかを容易につかむことができる（例えば、第一章であれば、音声学と音韻論とは、どのような学問分野か知る。発音の方法と発音記号について学ぶ。同化（逆行同化、順行同化）という現象を学ぶ。とある）

また、本文では日本語の歴史的な変化についても触れられており、現代語に偏らない。用例はそれが見られる資料名を具体的に挙げており、どういった資料が日本語史の資料となりうるか、用例採集の取っかかりになる。現代語の用例は簡潔且つ身近な例が用いられており分かりやすく示される。そして、各章末には参考文献として、内容についてさらに一歩踏み込んで知ることができる文献が挙げられており、発展的な内容も知ることができるようになっていく。

各トピックには「調べてみよう！」「やってみよう！」という課題が設けられており、読者に考えさせる仕組みになっている。この課題には、読者に調べさせるタイプのものとその場でできるタイプのものがある。本書を大学の教本として活用する際には、これらの課題は宿題ということにもできるし、その場でできる課

題については講義中に学生に取り組ませることによって、日本語の不思議さや面白さを身近に感じさせることができる。

本書の章立てを見ても分かるが、初学者にとって親しみやすい記述がなされており、しかも要点が押さえられている。本文中、重要な用語は太字で示すなどの点も、初学者にとって分かりやすい。太字の語句を、『日本語大事典』等で引けば、理解はより深まることになる。内容の説明にはイラストや図表なども用いられており、理解しやすいように工夫されている。

(ココ出版、二〇一七年四月一日初版第一刷発行、二三四頁、定価一、六〇〇円＋税)

(なかの・なおき 常葉大学短期大学部助教)